

岡倉天心

福井が生んだ近代日本美術の父

岡倉天心は、代々福井藩に仕える岡倉家の子として生まれ、日本美術の発展や、欧米での日本文化の理解と普及に大きな功績を残しました。天心自身は、父が働く横浜で生まれましたが、履歴書に「旧 福井藩士」と書き、福井県から上京した学生達の集まりに度々出席し、彼らを励ますなど、両親が生まれ育った福井への思いをしのばせるエピソードが数多くあります。

今年、福井が生んだ岡倉天心の生誕150年・没後100年にあたることから、近代日本美術の父であり、日本の精神文化を世界に紹介した優れた思想家である天心の、多分野における活躍と業績を特別展や、関連イベントで紹介します。

天心の功績

日本の美術品を守る

13歳で東京開成学校（現在の東京大学）に入学。アメリカ人教師フェノロサの通訳をしながら日本美術の研究を手伝ううちに、自身も日本美術に深い関心を持つようになりました。当時の日本は西洋化の波が押し寄せ、貴重な日本の美術品が不当に低く評価され売りに出されたり、壊されたりしていたため、フェノロサとともに修復や復元に懸命に取り組みました。日本の優れた美術品を、私たちが簡単に見ることができるよう、実はこうした天心の働きのおかげなのです。

美術界の発展に尽力

28歳の若さで東京美術学校（現在の東京藝術大学）の校長に就任し、横山大観や菱田春草など、のちに日本を代表する芸術家を世に送り出しました。

その後、自分の理想とする芸術活動を実現しようと「日本美術院」を設立。日本の絵画に、光や空気を色の濃淡で表現する西洋の画法を取り入れるなど、美術界の改革を進めました。

日本文化を世界に発信

明治後期、欧米ではまだ日本のことがあまり知られておらず、日露戦争もあって野蠻で好戦的な国という印象を持たれていました。

このため、天心は弟子の横山大観や菱田春草を連れて渡米。日本美術の展覧会を開いたり、セントルイスの万国博覧会で講演会を開催し、日本文化の理解と普及に努めました。

こうした海外での活躍が認められ、ボストン美術館に乞われて中国・日本美術部長に就任しました。

また、天心が英語で書いた「茶の本（THE BOOK OF TEA）」は世界中で多くの言語に翻訳され、現在まで出版が続いており、日本の文化や思想の素晴らしさを全世界にアピールしています。



空前絶後の岡倉天心展

場所 県立美術館
期間 11月1日（金）～12月1日（日）

天心の生い立ちから晩年までの生涯を追いながら、その功績や活動について近代日本画や彫刻の名品、豊富な資料を通して紹介します。福井が生んだ岡倉天心について詳しく知ることができる絶好の機会です。ぜひお越しください。

近代日本美術の名品を公開

菱田春草の「王昭君図」（重要文化財）や横山大観の「流燈」など、天心の愛弟子である東京美術学校の教授や、日本美術院の中心メンバーたちの名作を展示します。

天心を知る

天心自身が描いた絵画を展示するほか、ヨーロッパを視察した時に使ったイラスト入りの手帳や日誌、直筆の手紙やノートなど、天心の国内外での活動を知ることができる資料を取り揃えています。

フェノロサの愛蔵コレクション約100年ぶりの再会

天心と協力して日本美術の発展に貢献した狩野芳崖と橋本雅邦の4つの作品を、一堂に集めて展示します。

これらは、天心の師フェノロサがプライベート・コレクションとしてアメリカに持ち帰った作品で、生前は決して手放さなかった逸品です。全てが一か所に揃って展示されるのは、およそ100年ぶりです。



かのう ほうがい ひりゅうぎ じ ず
狩野芳崖「飛龍戯児図」
（フィラデルフィア美術館蔵）
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Moncure Biddle in memory of her father, Ernest F. Fenollosa, 1941

龍の首をいったん大きく後方に引かせてから、一気に首を突き出させるなど、天空の広大な空間を想像させる作品です。



かのう ほうがい ふくりゅうら かん ず
狩野芳崖「伏龍羅漢図」
（福井県立美術館蔵）

明るく軽やかな色彩で、宗教的画題を離れて自由に描かれており、近代日本画の始まりを告げる作品です。



かのう ほうがい におう etsy き ず
狩野芳崖「仁王捉鬼図」（東京国立近代美術館蔵）

フェノロサとともに研究しながら描かれたもので、絵具はフランスから取り寄せ、11回もの塗り直しがされていると言われており、絵の隅々まで巧みに彩色されています。

はしもと が ほう び しゃもんてん
橋本雅邦「毘沙門天」
（フィラデルフィア美術館蔵）
Philadelphia Museum of Art: Gift of Mrs. Moncure Biddle in memory of her father, Ernest F. Fenollosa, 1940

西洋画の空間表現を日本的に取り入れ、何層もの雲の塊で奥行きを感じさせる空間を描き出しています。



岡倉天心 1863（文久2）年～1913（大正2）年

空前絶後の岡倉天心展

【期間】 11月1日（金）～12月1日（日）
【開館時間】 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
11月1日（金）を除く金・土曜日は午後8時まで（入館は午後7時30分まで）

【料金】 一般1,000円（前売り800円）、
大学・高校生700円、小中学生500円
前売り券は10月31日（木）まで 県立美術館お

よびコンビニ等で発売中

【場所・お問合せ】

県立美術館
0776(25)0452

※会期中の土・日・祝日には「見どころ解説会」を開催。
11月9日（土）、16日（土）午後4時から18日は「担当学芸員によるギャラリートーク」を開催します。



関連イベント

「ふくい天心美術塾」講演会
「岡倉天心と日本美術院」

天心が日本美術院を設立した経緯や、美術院での活動について紹介します。

【講師】 手塚雄二氏（福井県立美術館特別館長）
【日時】 11月1日（金） 午後2時～午後3時30分
【場所】 フェニックスプラザ 小ホール
【お問合せ】 県文化振興課 0776(20)0580

国際シンポジウム
「岡倉天心ー欧米における東洋文化思想のひろがり」

天心の数多くの功績の中で、特に欧米での東洋文化思想の発信に焦点を当て、世界における天心の立ち位置を探ります。

【講師】 古田亮氏（東京藝術大学美術館准教授）ほか
【日時】 11月2日（土） 午後1時30分～午後4時30分
【場所】 県国際交流会館
【お問合せ】 県立美術館 0776(25)0452

講演会
「岡倉天心と岬の国・福井」

天心が幼い頃に亡くなった母が、天心の思想に与えた影響を解説します。

【講師】 鍵岡正謹氏（岡山県立美術館館長）
【日時】 11月23日（土・祝） 午後2時～午後3時30分
【場所・お問合せ】 県立美術館 0776(25)0452

特集展示
「クールジャパンのさがけ岡倉天心」

「茶の本」や、アメリカでの天心の活動を伝える資料を展示。会期中は毎週末、「和」を体験できるイベントやワークショップを開催。

【日時】 11月24日（日）まで 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
【場所・お問合せ】 こども歴史文化館 0776(21)1500（週末のイベント・ワークショップは参加費やお申込みが必要です）